

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善(例)

【学 年】 小学校第3学年

【単元名】 日本の音楽に親しもう (音楽づくり) (全4時間扱い)

【育成する資質・能力】

〔知識及び技能〕	〔思考力, 判断力, 表現力等〕
<p>【知識】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソ, ラ, ミ, シを用いて音楽をつくと, 童歌の感じが表れるということ。 <p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・童歌の音階を用いて, 音を自由につなぎながら即興的に音楽をつくり出すことができる技能。 ・自分の作品を図形楽譜等に表すことができる技能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・童歌の音階を用いて即興的に表現し, 自分の表したいことに近い音楽を見つけた力。 ・川柳の言葉の抑揚やまとまりに即して, 自分の表したい感じが表れるような旋律となるよう, 音のつながり方を工夫する力。

【主な学習活動と留意点】

前題材からのつながり：2学年の題材「いろいろな音に親しもう」と関連をもたせ、リズムづくりから旋律づくりへ移行できるようにする。

働かせる見方・考え方：音楽に対する感性を働かせて、川柳の語感や童歌に使われている音階とその効果を視点に自分の作品をとらえ、川柳に込めた自分の気持ちとかかわらせて考える。

段階	学習活動 (時間)	留意点
第一 次	<p>学習問題：わらべうたの音階には、どのようなひみつがあるのだろう</p> <p>1 わらべ歌にどのような音が使われているかを調べる。(1)</p>	<p>わらべ歌の音階を知り、音楽づくりへの意欲を高める場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞いくつかのわらべ歌を提示し、それぞれの曲で使われている音をまとめた表を比較するよう促し、使われている音の共通点を見出せるようにする。 ☞見出したわらべうたの音の特徴を用いて自分の川柳に音をつけていくことを伝える。
	<p>学習問題：自分のわらべうたをつくろう</p> <p>2 ソとラを用いて、自分の川柳に音をつけ、作品をつくる。(1)</p> <p>3 自分が大事にしている言葉の部分の旋律を、ミとシを入れて工夫する。(1)</p>	<p>選んだ川柳にわらべ歌の音階を使って音をつける場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞言葉の抑揚に合わせて音を置いた後、歌いながら表したい感じになっているかを確認するよう促し、さらに工夫したい部分(大事にしたい部分)があるかを問う。 ☞ミとシを加えた効果を共有できるようにし、自分が大事にしたい部分を工夫するよう促す。
第三 次	<p>学習問題：自分たちがつくったわらべうたをたのしもう</p> <p>4 自分の作品を、楽譜で書き表し、作品を発表して聴き合う。 ・第1次の学習問題について、自分なりの言葉でまとめる。(1)</p>	<p>わらべ歌のひみつについて、自分の言葉でまとめる場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞自分の作品を、友達同士で大事にしたいところを伝え発表し合うよう促し、どのように聞こえたか感想を伝えるよう促す。 ☞見つけたわらべうたの秘密についてわかったことや感じたことなどについて問う。

次題材へのつながり：条件に従って音楽をつくった経験を生かし、題材「日本の音楽に親しもう」においてお囃子等で使われる5音階に着目した音楽づくりにつなげる。